

あいさつ

と でつながる上島町



上島町長
上村 俊之

上島町の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、瀬戸内に昇る朝日の美しさを、懐かしい顔の輝きと共に改めて感じたのではないのでしょうか。

昨年を顧みますと、村上幸史選手のベルリン世界陸上銅メダル獲得という、上島町民に「夢」と「誇り」を与えてくれたニュースが最も印象的でした。町民の敬意と熱い想いがこもった上島町名誉町民のメダルは村上幸史選手の胸に、私達町民の胸の奥に燦然と輝き続けるでしょう。

また、昨年は「政権交代」という言葉が流行語大賞になったように、夏の終わりの衆議院選挙において自民党政権から民主党政権へと国民

は日本丸の「船長交代」を選択しました。

この船は「坂の上の雲」の主人公の一人であり瀬戸内の水軍の血を引く秋山真之が乗船する旗艦三笠であるのか、はては数量がはるかに勝るロシアのジノヴィー・ロジェストヴェンスキー司令長官が指揮を執るクニャーシ・スヴォーロフ（バルチック艦隊）となるのか、NHKスベシヤルドラマ同様、本年は主権者の国民として注視しなければならない責任の年といえます。

さて、私の昨年の手帳にメモが残っていました。「今、飛行機の時間待ちをしている待合室の眼下に、出発保安検査場があり、その前の広場にぽっかりとスポットライトに照らされたように3人の家族が見えます。ひざまずき、小さな男の子を何度も抱きしめ、その額に何度もキスをするお父さん。その傍らには涙をぬぐうお母さんが。そのお父さんは男の子の頭を撫で、そのまま手を上に、ついでのように妻の頭を撫でました。小さな男の子も泣いているのか、再度お父さんは男の子を引き寄せ優しく抱き上げました。世界で一番大切なものを包み込むように。

羽田空港のロビーで、ガラス越しにサイレント映画を見ているようです。

本当に抱きしめ頭を撫でてもらいたかったのは、頼る人が旅立ってしまう妻の方かも。…」

私は、町づくりはこの「家族愛」が基本であり、相手を思いやる心で臨めばより良き方向に上島町は発展し、問題も解決するものだと考えています。もちろんお父さんも、時には子供を叱らなければならない事もあるし、親として反省する時もあるでしょう。

上島町民として「世界に誇れるふるさと」を創り上げるためには、お互いを支え合い、お互いが譲り合い、お互いを敬い、お互いを愛する

精神が最も大切なのではないのでしょうか。町行政運営においては数限りない義務的業務が山積し、法律改正等により次々と新たな課題が生まれる中、上島町職員も全力で取り組んでおります。

しかし、まだまだ十分ではありません。合併後の業務弊害を解決するため、更なるスピードとサービス、サポート体制を確立するためにも役場組織の改革が必要であり、本年は上島町役場組織改革・体質改革元年として新たな歩みを始めますので、主権者である町民の皆様も大いに注目して下さい。

新年を迎えるにあたり、私は「仁は人の心なり、義は人の道なり」を胸に、新たな気持ちで仕事に取り組んでまいります。また、干支が寅年ですので、町民の皆様のお力により「虎に翼」の行政運営ができることを願っています。

「最も無駄な一日は、一度も笑わなかった日だ」という言葉があるように、上島町民の皆さん、本年も健康が一番、「明るく・楽しく」スマイルで頑張りましょう。

謹賀新年



上島町長 上村 俊之

2010年 新年のご

海と緑と太陽
笑顔

新年明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとりまして、健康で暮らしやすい年になりますようご祈念申し上げます。

本年も昨年同様、上島町議会の議員活動等に対し、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、世界に誇るふるさと「上島町」であったと思います。村上幸史選手が昨年の北京オリンピック陸上男子やり投げで日本代表に選ばれました。そして、昨年は皆さんご承知のとおり、世界陸上競技選手権ベルリン大会で銅メダルを獲得し、世界に自身の名はもとより、上島町の名を轟かせてくれましたことは大変誇りに思います。



上島町議会議長
土居 計彦

このことは、上島8千町民にとって感動を与え、また、青少年には大きな夢を与えていただきました。その他にも各分野で活躍され、ふるさと「上島町」の名を様々なところでPRしていただきましたことに対し、感謝と御礼を申し上げます。

さて、世界に目を向けますと、世界的景気の悪化により日本企業の経営はなかなか明るい兆しを見い出せません。輸出に依存している日本経済は「ドバイショック」で「円高」となり、更に先行き不透明であります。

このような中、本町議会としても財源厳しい折、議会の行政監視機能を最大限活用し、行政経費の節減、削減に努めなくてはなりません。そのための第一歩として議会自ら、次回選挙より議会主導により議員定数を4人削減し、定数を14人とするにしました。

また、今年は、全員協議会も定例議会各種委員会等と同様に傍聴が出来るように環境づくりをし、一人でも多くの方に傍聴していただき町民参加の開かれた議会運営に努めて参ります。

国政においては、国民の意思により政権交代となり、国民のために事業仕分けを行う等従前のスタイルと変わった政府、そのなかにおいても、陳情要望等の方法が大変改革されていますが、本町に必要な事業については、議会としても、今まで以上の積極的な行動をして参る所存でございます。

本年12月には、町民の永年の夢であり、上島町合併の必須の条件である上島架橋、その一つの「生名橋」が開通します。

このことにより、町内の交通体系は「弓削大橋」・「生名橋」・「立石港」經由で「因島」や「しまなみ海道」の利用が多くなると予測されます。これらのことに対応するため、立石港の

「駐車場の整備・港務所の建替・新栈橋の増設」が現在着々と行われています。

しかしながら、これらの設備投資や環境整備がお金や人の町外流出に拍車をかけることも懸念されており、このため本議会では調査研究・検討を加え、町活性化への具体的な取り組みべき施策を積極的に提案して行きたいと考えております。

皆で知恵を絞って、新ルートを使った「観光客の誘客」・「定住促進への取組」・「上島町へ向かう通学生や通勤者を増やす取組」等を展開し、町の活力を維持しなければなりません。

加えて、「生名橋」の開通の喜びのみに浸っては居られません。「生名橋」の開通を契機に忘れてはならない「岩城橋」の早期着工を図らなければなりません。

また、最近のニュースでは、県が進める「お四国さん」によるお接待・おもてなしの心を持つて観光客の誘客を図ることや本四架橋の通行料が1,000円以下にという話もあります。

県内外からのアクセスが安価で時間距離も短縮されることに加え、上島町の橋は全部無料ですし、都会の人に上島町へ来ていただくチャンスでもあります。

上島町の誇れる資源、自然や人情、特産物などをやる気・勇気でPRし元気な町づくりを住民・地域・議会・行政が一体となってスクラムを組んで、強力で推進しようではありませんか。

上島町議会議長 土居 計彦